

講義名	教養特講（社会保障を考える）/社会保障論			授業形態	
担当教員	上瀬 真生	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

社会保障とは、「誰もが生活上で出会う可能性があり、その生活を脅かす事故や障害に政府を中心として社会的に対応する仕組み」である。本科目では、まず社会保障の理念の発展と制度の体系を概観する。そのうえで日本の年金制度を取り上げて、その仕組みと現在の問題点を考える。それらを通じて、社会保障という仕組みの基本を理解し、今日の制度の課題と解決策について受講生が自分なりの考えをもつことができるようになることをめざす。

到達目標

社会保障をめぐる問題に関心をもつことができるようになる。
 社会保障制度についての基本的知識を身につけることができるようになる。
 社会保障制度についての自分なりの考えをもつことができるようになる。

提出課題

毎回、「一言カード」を提出してもらう。
 講義時に2回小テストを課す。
 また、中間レポート試験と期末レポート試験を課す。
 *これらは、キャンパスクロスをつうじて提出してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義後に提出してもらう「一言カード」にもとづいて、次回の講義で必要な補足説明・解説を行なう。
 小テストと中間レポート試験については、キャンパスクロスをつうじて採点結果を伝え、講義時にコメントする。
 期末レポート試験については、要望があればコメントを付して採点結果を伝える。

評価の基準

講義時間中に行う小テスト、中間レポート試験、期末レポート試験の総合評価（単純合計）による。
 小テスト 10点満点×2=20点満点
 中間レポート試験 最高20点
 定期試験 70点満点
 *「一言カード」については、基本的に成績評価の対象ではない。ただし、最終的に成績判定をする際に参考とすることがある。

履修にあたっての注意・助言他

社会保障制度は多くの制度・仕組みの組み合わせで成り立っているため、複雑でややこしく、取っつきにくいと感じる受講生がいるかもしれない。できるだけ身近な問題との関係を踏まえて基本的な考え方を講義するつもりであるので、受講生も新聞や雑誌などの関連記事に目を通し、今日の社会保障をめぐる問題について知る努力をしてほしい。
 なお、以下のとおり、受講ルールを定める。
 (1) 授業開始後15分を経過したのちは入室を認めない。
 (2) 席番については教員の指示にしたがう。
 (3) 机番は最終、目にあたる場合は進退を許してもらう。
 (4) スマートフォンなど電子機器の電源は切る（レジュメ完成のための使用は例外。ただし、写真撮影は禁止する）。

教科書

.教科書は使用しない。

参考図書

.社会福祉学習双書2024 第0巻 社会保障.	『社会福祉学習双書』編集委員会 編	全国社会福祉協議会	2970	9784793514470
-------------------------	-------------------	-----------	------	---------------

その他

キャンパスクロスをつうじて、レジュメ、資料を公開する。
 公開は基本的に講義日の5日前とする。
 受講生は、これらをダウンロードして、印刷するなど、受講の準備をしなければならない。

授業計画

01. 社会保障とはなにか	
02. 現代社会における社会保障制度の課題	人口の変化
03. 現代社会における社会保障制度の課題	労働と家族の変化
04. 社会保障制度の歴史	イギリスの歴史
05. 社会保障制度の歴史	ドイツ・フランス・アメリカの歴史
06. 社会保障制度の歴史	日本の歴史
07. 社会保障の財源と費用	社会保障の財源（社会保険料、税財源投入、利用者負担、積立金）
08. 社会保障の財源と費用	税財源にもとづく制度
09. 社会保険と社会扶助	社会保険のしくみ
10. 社会保険と社会扶助	社会保険の意義と限界
11. 社会保険と社会扶助	社会扶助の意義と限界
12. 年金保険制度の概要と課題	年金の種類と財政のしくみ
13. 年金保険制度の概要と課題	二層建ての年金制度
14. 年金保険制度の概要と課題	国民年金のしくみ
15. 年金保険制度の概要と課題	厚生年金のしくみ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の復習にもとづく小テストの準備 30時間
 中間レポート試験の準備 15時間
 定期試験の準備 15時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目は、全学共通科目/教養科目/教養特講に位置づけられている。到達目標「」を達成することによって、本学学生が「共通して身につけておくべき資質・能力」のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」、「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」となることに寄与する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

「一言カード」にもとづき、次回の講義で必要な補足説明・解説を行なう。
 できる限り、受講生に意見を述べる機会を与える。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

キャンパスクロスや RYUKA Portal のメールをごまめにチェックすること。